

あとがき

松本由理子

ちひろ美術館・東京副館長／(財)いわさきちひろ記念事業団事務局長

B5版24ページでつくった「ちひろ美術館20年の歩み」から10年、安曇野ちひろ美術館10年の活動も加わった本誌はA4版80ページ。ちひろ美術館の今とこれから、そして、歩んできた道を記録したものです。

美術館の出発点は、ちひろの絵に会える場を作ってほしいというファンの方からの手紙でした。ちひろが残した作品・資料と著作権をもとに、(財)いわさきちひろ記念事業団を作り、出版社と協力して画集や本を出しながら建設資金を生み出し、自宅の一角に美術館が誕生したのは、ちひろの死後3年目でした。

1日5人も訪れてくれればとの思いで設計したにもかかわらず、初日に400人も来館者を迎えて以来、ちひろの絵を求め、ちひろ美術館で安らぎと明日を生きる勇気を得たと言ってくれる方が、どんなにたくさんいらっしゃるかを、思い知らされる毎日でした。

展示は変えなければならない、美術館を運営するにはスタッフが必要、作品を整理・研究する空間も必要、広報活動もしなければならないという当たり前のことがわかりはじめたのが開館7年目、初代館長の飯沢匡の企画による「夢二からちひろへー子どもの心を持ちつづけたイラストレーター歴史」展を開催したときだったように思います。

子どもの幸せと平和を願い続けたちひろの心を大切にしつつ、ちひろが人生をかけた絵本という分野ですばらしい仕事をされている内外のアーティストに広く目を向け、企画展や作品の収集・保管・研究・公開に取り組みはじめたのは15年目、絵本の専門美術館としての活動をより充実させ、常設でそれらの作品を公開するために安曇野ちひろ美術館を開館できたのが20年目でした。

東京と安曇野に二つの美術館という場を持つてからの10年間は、本誌に収録されているとおり、世界の絵本画家のコレクションの充実、地域と連携した教育・普及活動、国際交流活動と、翼は大きく広がり、新たな可能性を求めて、さらに羽ばたこうとしています。

これも支えてくださった皆様のおかげと、心より感謝しております。

ちひろ美術館の30年

発行日 2007年9月8日
編集 ちひろ美術館 松本由理子 阿部恵
編集協力 池田春子
デザイン 中沢定幸
協力 中川敦玲 木之下晃 吉田誠(日経アーキテクチュア) 橋爪拓治
印刷 あかつき印刷(株)
発行 ちひろ美術館

〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2

TEL.03-3995-0612

<http://www.chihiro.jp>

Copyright © 2007 Chihiro Art Museum